

平成 30 年度 事後評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	都市計画道路 豊中岸部線、千里中央線																														
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路整備課 建設グループ（連絡先 06-6944-9280）																														
事業箇所	吹田市春日 4 丁目、千里山竹園 2 丁目、千里山西 6 丁目及び桃山台 4 丁目地内																														
事業目的及び事業内容	<p>【事業目的】 本路線は、吹田市中心部に位置する千里ニュータウンから発生する自動車交通の円滑化を目的とし、混雑する府道豊中摂津線のバイパスとして整備したものである。</p> <p>道路構造 延長: 0.9km 道路幅員: 22m 車道: 4 車線 (3.25m×4) 自転車歩行者道: 両側 (3.25m×2)</p>																														
関連事業とその現状	—																														
社会経済情勢の変化	<p>【本路線・周辺道路の状況】 本事業としては、豊中岸部線区間が平成 22 年 3 月に供用し、千里中央線拡幅区間が平成 25 年 11 月に完成した。</p> <p>[供用区間交通量]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 22 年度</th> <th>平成 27 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12 時間交通量</td> <td>5,166 台</td> <td>6,540 台</td> </tr> <tr> <td>24 時間交通量</td> <td>6,720 台</td> <td>8,733 台</td> </tr> <tr> <td>混雑度</td> <td>0.38</td> <td>0.47</td> </tr> </tbody> </table> <p>[周辺道路交通量（吹田箕面線）]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 17 年度（供用前）</th> <th>平成 22 年度（供用後）</th> <th>平成 27 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12 時間交通量</td> <td>4,512 台</td> <td>4,516 台</td> <td>3,379 台</td> </tr> <tr> <td>24 時間交通量</td> <td>6,633 台</td> <td>6,322 台</td> <td>4,359 台</td> </tr> <tr> <td>混雑度</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>0.78</td> </tr> </tbody> </table>				平成 22 年度	平成 27 年度	12 時間交通量	5,166 台	6,540 台	24 時間交通量	6,720 台	8,733 台	混雑度	0.38	0.47		平成 17 年度（供用前）	平成 22 年度（供用後）	平成 27 年度	12 時間交通量	4,512 台	4,516 台	3,379 台	24 時間交通量	6,633 台	6,322 台	4,359 台	混雑度	1.00	1.00	0.78
	平成 22 年度	平成 27 年度																													
12 時間交通量	5,166 台	6,540 台																													
24 時間交通量	6,720 台	8,733 台																													
混雑度	0.38	0.47																													
	平成 17 年度（供用前）	平成 22 年度（供用後）	平成 27 年度																												
12 時間交通量	4,512 台	4,516 台	3,379 台																												
24 時間交通量	6,633 台	6,322 台	4,359 台																												
混雑度	1.00	1.00	0.78																												
事業実施による自然環境の変化	特筆すべき自然環境への影響はない。																														
最終評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	—																														

2 事業効果の分析等

	【最終評価時点 H23】	【事業評価時点 H30】	【変動要因の分析】
事業費	54 億円 (国 29.7 億円、府 24.3 億円)	54 億円 (国 29.7 億円、府 24.3 億円)	事業費に変化なし
経過 ①事業期間 ②採択年度 ③着工年度 ④完成年度	①24 年 ②平成元年度 ③平成元年度 ④平成 24 年度	①25 年 ②平成元年度 ③平成元年度 ④平成 25 年度	中央分離帯設置に係る沿道土地利用者との協議に時間を要したため。
定量的効果 (費用便益分析等)	<p>【効果項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走行時間短縮便益 ・走行経費減少便益 ・交通事故減少便益 <p>【分析結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B/C=4.3 ・B=358 億円 ・C=84 億円 <p>【算出方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省「費用便益分析マニュアル（平成 20 年 11 月）」により算出 ・H17 交通センサスペースの H42 将来交通推計値により算出 	<p>【効果項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走行時間短縮便益 ・走行経費減少便益 ・交通事故減少便益 <p>【分析結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B/C=4.9 ・B=510 億円 ・C=105 億円 <p>【算出方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省「費用便益分析マニュアル（平成 20 年 11 月）」により算出 ・H17 交通センサスペースの H42 将来交通推計値により算出 	一部区間の先行供用により事業効果の早期発現が図られ、便益が向上している。
事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の緊急輸送路・避難路の確保 ・道路空間確保によるライフライン導入空間の確保 ・本路線整備による事業地周辺の道路渋滞緩和 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の緊急輸送路・避難路の確保 ・道路空間確保によるライフライン導入空間の確保 ・本路線整備による事業地周辺の道路渋滞緩和 	変更なし
その他特記事項	—		

3 評価結果と今後の同種事業に対する改善措置等

評価結果 (事業効果の発現状況等)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備及び歩道改良により、自動車交通の円滑化と歩行者等の安全確保が図れた。 ・大規模商業施設へのアクセス性が向上し、地域経済の活性化につながった。
今後の同種事業に対する改善措置等	—

平成30年度 事後評価 (都市計画道路 豊中岸部線・千里中央線)

